市長と語ろう　タウンミーティング（三日市）

平成２３年１１月２９日（火）

市民

私もだんだん、年が年なので、そういう介護とか老人福祉とか、そういうものを受ける年齢になっているんですが、総合振興計画の中で、市民病院に100億円を投資することになっていました。これはかなり負担になると思うんですよね。その必然性というか、必要性について、もうちょっと説明をお願いしたいんですが。

市長

平成24年度から28年度まで、５年間をかけて黒部市民病院の改築を予定しております。その中で、100億円すべてがこの改築というよりも、中身につきましては、約80億円が改築に使わせていただいて、20億円は医療関係の機材等で予算を予定しておりまして、その80億円につきましても大変大きな予算でありますが。今、黒部市民病院が、皆さん方のおかげで同じように経営させていただいておりますが、それでも新川医療圏の中の中核病院ということでありますが、さらに県東部の中でも最も利用度の高い病院でありまして、県東部の中での中核病院としての責任を果たすためには、いろんな医療機器、最新鋭の医療機器などを導入しなきゃいけないという必要性もありますし、入院などにつきましても、何とベッドの稼働率が94～95％ほどでいま回っております。そういう意味では、超過密なスケジュールといいますか、稼働率で回っている。そういうものに対する満足度、あるいは安全な医療を提供するということなどにつきましても、病院の建物そのものは、まだまだ外見は立派に見えますが、実は建物の構造よりも、新しい医療システムに中の各部屋の大きさとか各施設の規模が一致しないというようなことになってきておりますので、大体そういう意味では、35年から40年ほどのサイクルで病院というものは１つの変わり目、見直しにこれからも来るんだろうというふうに思います。決して立派な華美なものをつくるというような考え方ではなくて、新しい医療システムにマッチしたような施設に改築するというようなことから、ぜひやらせていただきたいというふうに思います。

その結果、経営的にはどうなるかということになりますが、今現在は数千万円単位で大体おおむね黒字として経営させていただいておりますが、累積赤字も現在全くないわけでありますが、改築後はどうなるかといいますと、5～6億円の赤字になると思います、単年度で。ただ、改築後は10億円程度の減価償却を予定しておりますので、この減価償却の範囲内での赤字であれば資金的には回っているわけでありますから、その投資によってこの医療体制を充実することができるのであれば、それはやっていくべきではないかなというふうに思っておりますので、黒部市の規模とすればかなり大きな病院になってしまいましたが、県東部の、あるいは新川医療圏の中核病院としての役割、責任をしっかり果たしていくには、計画的に改築というものはこれからもあるものだというふうに考えております。

事務局

Ａさん、よろしいでしょうか。

ほかの方からもご意見をいただきたいというふうに思います。

市民

前沢のＢです。

２つ質問したいんですけれども、１つは、防災関係。私は町内会長をしていますけれども、黒部市で何か想定外の事故が起こったときにどうしたらいいんやと、全くわかりません。そして、情報伝達の手段もないんじゃないですかね。宇奈月町に私は住んでいましたので、宇奈月町では、各家庭に緊急放送が入って、現在何々が起こっているからどこそこへ逃げたりする、そういう情報が入るようになっていましたけれども、黒部市、ここへ来てからはそういうのを見たことがないし、そういう防災関係に対しての、この前の東日本の震災のような事故が起こったときに、だれが何をするのかさっぱりわからん、情報も入ってこないと。だから、想定外のことも考えて、各家庭でテレビというか、必ず情報が入る、そういう手段が１つ要るんじゃないかと思います。そういうことを計画されているかどうかということが１つと。

もう一つ、放射能関係ですけれども、最近非常に各家庭というか、東日本の福島１号の関係で敏感になっています。食べ物についても非常に皆さん敏感になっていますけれども、こういった関係の情報の中で、富山県に今７つですか、モニタリングポストがやっと設置されるようになりましたけれども、魚津市とか黒部市には１つもない。これは今住んでいる我々のところには、ぜひ１つ黒部市に作ってほしいと思います。

なぜかといいますと、人の出入り、黒部峡谷鉄道を通じて山へたくさんのお客さんが入ってきています。前沢のほうは種籾もいっぱいつくっていますね。米のもとをつくっているんですよね。そういう関係で、もし風評が出たときに、データがなければ太刀打ちできません。だから、今の段階からこのような状態で放射能に関しては我々は何にも問題はありません。そういうデータをつくるためにも、モニターポストはぜひ１つ黒部市でつくってほしいと思います。

以上、２つです。

市長

ありがとうございました。

まず初めに、災害時の連絡体制をもっと充実にするべきであるというご意見だったと思います。実は、旧宇奈月町といいますか、今の宇奈月地区には、各戸に防災行政無線がそれぞれ設置されておりまして、それを利用して各戸にいろんな情報がスピーディーに入るような体制になっております。旧黒部地区といいますか、旧黒部市の中では、個別のそういう受信機ってまだ設置されておりませんが、各振興会の役員さん、あるいは町内会長さんなどにつきましては、300軒余り、それは各戸に連絡できる、そういう行政防災無線が整備されておりますが、全戸に設置するということになれば、非常にコスト、コストだけじゃないんですが、コスト的なもの、あるいは設置した後の維持管理などについては、なかなか現実的ではないのかなというふうに思っております。

それで、災害時はどうなるのかといいますと、ケーブルテレビのテロップ放送とか、ラジオ・ミューの災害時の割り込みの放送とか、そういうものを利用して皆さん方にいろん

な情報をお知らせするようなこと、あるいは屋外の拡声器なども、なかなか聞き取りづらい、特に冬場、戸を閉め切ったときには、なかなか何を言っているかわからないというようなこともありますが、それぞれそういうものが鳴ったときには何かが起きたというようなことをふだんから認識していただいて、個々にそれぞれ情報周知に対応していただきたいなというふうに現在思っているところであります。全戸に個別の防災無線の設置につきましては難しいのではないかなというふうに思います。

次に、放射線の測定のモニタリングポイントにつきましては、黒部市、魚津市にはそういう観測地点はありませんが、県の方針で、この地域でということで、入善町のほうに設置していただいておりますので、そのデータで、おおむね我々はその状況を知ることができるのではないかなというふうに思います。

ただ、お米の件につきましては、これは、消費者といいますか、問屋さんのほうから、黒部市内のお米の放射線の測定をしてほしいということで、宇奈月温泉地区を除いて15地区すべて測定をし、そして、安全であるということを証明して、販売、出荷をさせていただいておりますので、そういう意味では、個々のお米などについては、農協さんを中心として、そういうような検査といいますか、そういうものをしっかりしておりますので、その点は安心していただきたいと思います。さらに、もっとこういうところできちっとした検査をしてほしいというようなことであれば、またご意見をいただきながら相談させていただきたいというふうに思います。

事務局

Ｂさん、よろしいでしょうか。

ほかにご意見をいただきたいというふうに思っております。

市長

ちなみに、放射線の測定につきましては、市でも検査できる機械を購入し、今持っておりますので、そういうような依頼があれば、市のほうでの測定も行いたいというふうに思います。

市民Ｃ

大黒町のＣと申します。

この資料、市民満足度という資料をいただいたわけなんですけれども、これの数字の見方、ちょっとわかりにくいので説明していただけますか。自然環境の保全、多分、プラスのほうで44.6％というふうに表示されていますけれども、何が44.6％なのか。それから、下のほうへ行って、公共交通機関のページがマイナス24.6％というふうに出ていますけど、そもそもゼロ％は何なのか。それから100％はあり得ないんですけれども、そこの辺、どういうふうにこの表を見ればいいのか教えていただきたいと思います。

以上です。お願いします。

市長

アンケート結果の見方について、事務局で説明できますか。

事務局
　細かい計算方式がありますので、見方としましては、真ん中に0.00と書いてございます。右側に、数値が高ければ高いほど満足度が高いというふうに見ていただければよろしい。左のほうに向かえば満足度が低いというふうにご覧になっていただけばよろしいと思います。色分けにつきましては、分野ごとで色分けを、実は原稿がカラーでありますので、色が黒いとか薄いとか白いとかということについては無視してくださって結構であります。右側に、数値が高ければ満足度が高いというふうにご覧になっていただきたいと思います。

市民C
　質問の仕方が悪かったかなと思いますけど、自然環境の保全、１つの例でとりますと、44.6％という数字なんですけど、これはアンケートをとった総数の44.6％の方が自然環境の保全については満足していますよという意味ですか。その辺がちょっとわからないので。

事務局
　これはパーセンテージではございません。満足度をその度合いによって点数をつけて合計を人数で割った場合に、その数がプラスに行くかマイナスかという数字のとらえ方になっておりますので、あくまで、例えば100人がおられるうち46人の方がおられるという、そういう点数の出し方ではないということです。

事務局
　Ｃさん、よろしいでしょうか。

市民
　今の非常にわかりにくいんですけど。今回はともかく、次回からは母集団がどうなのか、どこか横にでも書いていただければわかると思いますので、この表の見方の説明書きを補足という形で記入していただければ結構かなと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長
　データの結果の示し方の出し方をただし書きか何かで出すということに今後はさせていただきたいと思います。

事務局
　ご意見ありがとうございました。
　ほかにございますでしょうか。先ほども申しましたとおり、事例にかかわらず、総合振興計画ということでございますので、皆様のご提言、ご意見をいただきたいというふうに思っておりますので、あらゆる分野からご意見等をいただければというふうに思っております。

市長
　市全体の問題じゃなくて、三日市地区の問題とか、大布施地区の問題とか、そういうことにつきましても結構でありますので、うちの地区のあれはいつなんだということでも、わかりやすい質問でも結構ですから、ぜひお願いしたいと思います。

事務局
　いかがですか。

市民
　三日市のＤと申します。
　消防広域体制の件ですが、最近のニュースですと、ようやく１市２町にまとまるというような情報が入ってきているんですけど、今までもめたことの内容は、何が問題でそういうふうにもめたのかということを、簡単な言い方でよろしいですけど。あと、具体的に今後取り組む取り組みがあるんやということもありましたら、今の場面でありましたら言っていただけたらと思います。

市長
　それでは、話題であります消防の広域化について簡単にご説明申し上げますと、まず基本は、消防も行政でありますから、行政の枠組みを全国一律で30万以上じゃなければならないとか、富山県の場合には10万以上じゃなければならないとか、そういうふうな、非常に単純なわかりやすい基準で行政の枠組みをまず決めようとしたことに無理があったんだろうと私は思っています。それぞれの地域性とかつながりとか、それまでのいろんな歴史などで柔軟に考えなければならない。その結果、今、この消防の広域化というのは、国の方針で推進せよとされておりますが、全国で今動いているのは６カ所か７カ所。1,700ほどの自治体があって、消防本部はもっと数は少ないんですが、それでも千何百の消防本部があって、実際にこれが、国が示したような形で動き出しているのは６カ所、７カ所という結果であります。ということは、やっぱりその地域の実態にそぐわないのではないかなと私は思います。
　富山県におきましても、例えば富山県の東部の消防の広域化を進めるに当たって、まずは富山市を含む県東部の自治体に考え方を聞いてから案を示すべきだったというふうに思っております。県が示した３案の中には、富山市も入った案が２つ、そして富山市を除いて県東部の８つの市町村としての枠組みが１つ、富山市はもともと合併して42万人の規模になって、合併をするということは、消防の広域化を図ったわけです。消防体制を再整備したところに、富山市を含む県東部の案を２つも入れて、しかも、富山市長に相談なくつくったものを示した。最初から富山市は県東部の広域化は参加しないというふうに内々言っておられたにもかかわらず、そういうものを示した。その結果、８つの枠組みの１つしか残らなかった。それを強引に残った案で進めようとしたことが私は問題があると。しかも、我々も一度も枠組みについては相談もされませんでした。そこからこの話が難しくなった、こじれた原因がもともとはそこにあったんだろうと私は思います。
　そこで、１つの基準が、10万人ほどの規模じゃなければ、なかなか消防体制の充実が図

れないと、あるいは広域的に体制がとれないということであったとしても、人口の枠組みというのは１つの目安であって、今までのつながりとか、あるいは歴史などから考えたら、どういう枠組みが自然で、しかも、消防団の方も今日おられますし、消防の職員もおりますが、一番大事なのは、自分たちの地域だという、その地域に対する愛着というか、帰属意識、自分たちの地域であって、それを場合によっては命をかけて守っていこうという、そういうような気持ちがなかったら、消防というのはしっかりまとめていけないだろうと思います。

その中で、私は、帰属意識、地域の連帯、枠組みというのは、新川広域の枠組みが一番いいだろうというふうには思っていましたが、なかなか隣の市との調整が、最初から隣の市は、向こう側、西側の市町村との連携を最初に言われましたので、そうであるとすれば、我々は黒部川扇状地で消防も水防なども含めて活動しておりますので、黒部川の扇状地の中で、実態的にこれまでいろんな取り組みを行ってきた１市２町の枠組みが今の段階では最もいい、ふさわしい枠組みではないかなというふうに思っておりますが、そういうものを主張してきたところ、なかなか地域の中での調整に時間がかかって、ここへ来てようやく何となく今まとまりつつあるという段階であります。来月２日、報道もされましたので、２日に３首長がそろって、今後の方向性、考え方については説明をさせていただきたいなというふうに思っている、そういう段階であります。

事務局

Ｄさん、よろしいでしょうか。

先ほどお手を挙げられましたＥさん。

市民

今の市長の説明が大変よかったので、そのことの質問は差し控えます。私も今度の３・11で石巻へボランティアに行きましたけど、無理な合併はサービスの低下を招いているのが如実に見てとれましたので、消防も同じだと思います。なかなかいい回答でした。感心しました。

小さい問題なんですが、先ほど日本経済新聞のアンケートの中に、住宅アクセスの得点が四百何点と悪い結果が出ましたけど、まちを見ると、住民が７割かしらなんかで、更地になっているところが三日市の中にたくさん見受けられるんですが、そこを市が仲介して、郡部というか、田舎に住む人の、市街地あたりに移り住んでもらうような政策というのは考えにくいんでしょうかね。それは民間の不動産屋がやる仕事だということなんでしょうか。何かいいアイデアとかあれば、どんどんまちへ移り住んだほうがサービスもほんとうは密度が高くて、市民病院に行きやすい、スーパーも近くあるとかということで、まとまったほうがいいと思うんです。そういう歯抜けの状態でほんとうに寂しくなる思いなんですが、市長の考えは。

市長

今言われるように、市街地中心部に人口が増えていくような、移り住んでいくような、そういうような施策を積極的にやらなきゃいけないだろうというふうに思います。そのほ

うが、効率だけ言っておってもだめなんですが、行政効率もよくなりますし、高齢者の皆さん方が、特に歩いて暮らせるようなまちづくりというのは大変大事ではないかなというふうに思いますので、そういう考え方でいろんな施策を進めていきたい。

その結果、例えば新しい市庁舎の建設などにつきましても、市街地からちょっと外れて、新しいところで思い切って新しい庁舎をつくるというようなことも１つの考えとして、そういうこともちろん考えましたが、それよりも今までの中心市街地のいろんな歴史とか、いろんな機能を生かしていくというような方向でこれからも考えていきたいなというふうに思います。

ただ、不動産業を市があまりやり過ぎると、民間の不動産屋さんに影響しますので、市の遊ばせている利用していない市有地の中で、一部住宅、宅地の開発なども行っておりますが、市があまり価格を下げることもできませんので、定価販売みたいなことをしていますから、なかなか苦戦はしておりますが、かなりいい場所もありますので、ぜひ市の腹に入っていただいて、できるだけお買い上げいただければありがたいなというふうに思います。それ以上、販売が厳しいからといって価格を下げたりすると、民間の不動産屋さんに影響が出ますので、あまり無理をしないように進めているところであります。

事務局

Ｅさん、よろしいでしょうか。

市民Ｆ

皆様、Ｆです。よろしくお願いします。

桜井中学校の建設についてお尋ねしたいと思います。

何年か前にもタウンミーティングで、雨漏りがしているという、ＰＴＡの方から、ここでお願いというか、何とかしてくれという話があったのを実は聞いております。あまり情報が入ってきません。というのは、市役所とか新幹線の情報はしょっちゅう聞くんですが、中学校の建設についての情報がほとんど入ってきませんので、現時点で報告できる範囲内で結構ですので、お願いしたいと思います。

３年ほど前にＰＴＡが中心でアンケートをされたという話も聞きましたし、３年前ですので、そのときの父兄の方は、子供は今現在、卒業していないという、そういう過去のデータと、それから、一部では、送電線の近くではまずいんじゃないかという話も耳に入ったりしますので、現時点でのできる範囲で結構ですので、状況をお聞かせ願いたいと思います。

市長

先ほど学校施設の耐震化について最初のところで触れましたが、学校施設の耐震化というものにつきましては大変急ぐべきだろうというふうに思っておりますので。その中でも特に急がなければならないなと思っているのが、桜井中学校と田家小学校です。田家の方も一部おられますので、まず、田家につきましては、議会等にも説明しておりますが、まず、学校の統合で東布施と田家小学校の統合を平成26年度から実施したいというふうにお願いをし、各地区なりＰＴＡの方々にご説明を申し上げております。そうだとすれば、そ

れまでに、26年度までに田家小学校の耐震化なり、また、統合後の教室の関係等もありますので、改築なりをまず進めていきたいというふうに思っています。次に、桜井中学校でありますが、桜井中学校につきましては、耐震補強というわけにはいかない状況でありますので、桜井中学校につきましては、改築、建てかえということになると思います。

そして、さっき言われた新幹線関連とか新庁舎の建設など大型事業で後回しにされるのではないかというような、そういうようなご意見も聞いておりますので、そうではなくて、今年度、学校の耐震化等に使うために基金をつくりました。今年度は３億円の基金を積みましたので、来年度からも計画的に積んでいって、できるだけ早い段階で、実は昨日、桜井中学校で、子供たち、生徒を対象にスクールミーティングをしまして、その場で言ってしまいましたが、27年度着工で今考えていると、子供にはうそをつけんというふうに思いまして、そういうふうに答えました。それまでにまだ３年半近くありますが、周辺の地権者の皆さん、あるいは基本設計、実施設計等、いろいろ調整しなければならないものがございます。送電線の関係につきましては、心配される向きもありますので、送電線の影響しない、送電線の心配があまり出ないような配置で今考えております。当初は、今の校舎の山側に新しい校舎をつくるような計画もあったわけでありますが、それではなかなか厳しいのではないかなというふうに思いますので、それ以外の方法で今検討させていただいて、具体的に、今年度中に周辺地権者の皆さん方に説明をさせていただきたいなというふうに、今年度中に説明の段階に入りたいというふうに思います。

事務局

Ｆさん、よろしいでしょうか。

ほかのご意見、ご提言もお受けしたいと思っております。よろしくお願いします。いかがでしょうか。

市長

なかなか機会がありませんので、遠慮なくご発言をお願いしたいと思います。

事務局

今回は、テーマを特に絞ってお出ししているわけではございませんので、皆様が思っていること、それから、ご要望、ご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

市民Ｇ

よろしくお願いします。三日市のＧといいます。

新幹線の新駅に関することで、現在決まっていること、それから、これから決まっていくスケジュール、例えば、名称については、マスコミで常に仮称新黒部駅という言い方をされるんですが、この名称が正式に決まるのがいつごろなのかということ、それから、駅舎等の設計、あるいは周辺のことについても、確定していくのがいつごろなのかということ、現在決まっているところをお聞かせいただければと思います。

市長

ありがとうございました。

新幹線の関連につきましては、まずは駅周辺、全体で６ヘクターほどの周辺整備を行っているわけでありますが、基本的な配置は決定しております。今現在、その中でも地域観光ギャラリー、これが利用者の皆さん方の出入り口になる中心的なところでありますが、そこには観光案内とか地域の情報を入手したり、あるいはお土産を買ったり、そういうようなものが入る予定でありますが、その地域観光ギャラリーが東側、山側にあります。そして、西側、高速道路と新幹線駅のはざま地のところに計画しております交流プラザ、これはにぎわいをつくろうというところでありますが、それの基本設計についても、業者も決定をさせていただきましたので、具体的な設計を行う、そういう段階になっております。

今、まだ周辺整備が決まっていないところにつきましては、２カ所ほどございます。まずは、新幹線新駅に併設されます地鉄新駅、地鉄の新駅で乗りかえがスムーズにできるように、鉄軌道のネットワークを充実させようということで、富山地方鉄道の新駅をつくる計画でありますが、その地鉄新駅の駅前に複合ビル的な、ホテルとか、あるいは地元の事務所とか、そういうものも入ったような複合ビル的なものができるのかどうかというようなところ。あるいは、西側、高速道路のさらに西側、荻生地域になりますが、そこでの背骨道路ってわかりますか、新駅中新線、背骨道路に面した駅周辺のところに、にぎわいづくりということで、そういうような地元の商業とか、あるいは加工などの場所を、どこまでできるのかできないのかというようなことについて、今、具体的な検討を行っているところであります。

駅につきましては、もうそろそろ発注されます。年内もしくは年度内に発注されて、そして、平成25年の暮れぐらいまでには、これから約２年間で駅舎は完成します。それから、平成25年の暮れから冬にかけて、長野―黒部間で開業までの間、試運転がされるという状況になりますので、ＪＲさんとすれば、二冬を何とかテスト走行したいというふうな考え方でおられるようでありますので、駅舎の関係につきましては、あまり遅くならない段階で完成されるものというふうに思っているところであります。

次に、新幹線駅の名称につきましては、なかなか悩ましいものがございますが、高岡駅、高岡市さんなどでは駅名の公募ということで今動いておられますが、駅名をどうするかにつきましてはまだ決定いたしておりません。これまで私は、平成24年度に入ってから、駅名をどういう組織で、どういう方法で議論をして、候補を絞るのか、そういう組織を立ち上げて、半年間ほどかけて議論をし、候補を絞って、そして、ＪＲさんに24年度中には要望したいなというふうに思っております。ＪＲさんも、大体開業の１年から１年半ぐらい前に駅名を決定されるというのがこれまでの例でありますので、それでも十分間に合うというふうに思っております。駅名の候補を決めるに当たっても、慎重に決めないと、候補を要望したから、駅名をＪＲさんにお願いしたから、必ずそれが採用されるということもありません。これまでは、大体要望して半分ぐらいの確率でＪＲさんは要望された駅名を採用されております。その判断基準ははっきりしていると私は思っています。ＪＲさんにとって有利な駅名かどうか。地元にとってこういう駅名であってほしいとか、こういう駅名にすべきだというようなことは、それはそれで、地元とすれば、意見とすればいいんですが、ＪＲさんにとって有利な駅名、例えば、その駅名を聞いて、ああ、あそこのあそこ

だと、行ってみたいと、乗ってみたいと思うような駅名でなければ、ＪＲさんも基本的には採用しません。ですから、我々とすれば、当然要望するに当たっては、採用されるような駅名を候補に選ばなければならないんだろうというふうに思いますので、そういう点、よく考えて要望しなければいけないのではないかな。それは、24年中には私は要望すべきと思いますので、これにつきましてもご意見があれば、全国公募すべきだという意見もあるかもしれませんし、地元だけで、地元というのは、ここも難しいところ、黒部市で決めるのか、あるいは新川地域で決めるのか、富山県全体で決めるのか、その辺もなかなか難しい点があるのではないかなと思いますので、それらにつきましても、またご意見があればおっしゃっていただきたいなというふうに思います。

事務局

Ｇさん、よろしいでしょうか。

お約束の時間まであと十数分ということでございます。あと２名様ほどご意見をいただければというふうにも思っております。いかがでしょうか。日ごろ思っておられること、言っておきたい点というようなことでございましてもお受けたいというふうに思っております。よろしくお願いします。

市長

せっかくの時間で、時間が限られておりますので、なかなかご意見が出ないようであれば、こちらからちょっと投げさせていただきたいなと思います。

先ほど話した介護保険の話、待機者がたくさんおるとか、あるいはなかなか思ったようにサービスが受けられないとかというようなご意見がありますが、県内で一番基準保険料が安い3,900円でサービスを提供させていただいておりますが、決して安ければいいというふうには私は思っておりません。実は、隣の魚津市さんの介護保険が県内で一番高いです。今現在、4,800円です。黒部市は3,900円。約1,000円ほど、900円ほどの差があります。それが24年度からの第５期の計画は、計画期間は３年間でありますが、その保険料算定を今しているんですが、国の試算によれば、大体自然増だけで１人の保険料が1,000円ほど高くなるだろうというふうに試算がされております。

ならば、3,900円の新川地域の介護保険組合の料金と、魚津市さんとどこに差があるのか。やはり施設の数です。施設入所のベッド数が、やはり魚津市さんは多いんです。県内で最も多いのは、要介護者100人に対して施設がどれだけあるかという、そういう率を出すんですが、魚津市さんは100人に対して36床ほどあります。黒部市は100人に対して32床ということです。新川地域介護保険組合は要介護者が3,000人ほどおられますので、3,000人の中で100人に対して32床。お一人の方が施設に入られたら、介護保険として、例えば特別養護老人ホームに入られたら、年間約300万かかります。お一人で300万。ですから、100人増やせば３億円の給付が増えます。ですから、それに対して、今現在、黒部市内だけでも百何十人の待機者がおられる。それを増やせばいいじゃないかという話になれば、例えば、新川地域で200床ほど足りんと言ったら、200床増やすと。その結果、保険料、それは仕方ないでしょうという住民の皆さん方の判断であれば、200床増やすということになれば、100で３億円ですから、わかりやすく言えば年間６億円の給付が増えると。

それが保険料にどう反映するかといったら、100床で大体１人当たり平均すれば200円ほど、100床で１人当たりの平均保険料は200円余り増えます。200床なら400円。3,900円を400円増やせば200床の施設を増やすことができます。どういう選択をするかだと私は思っています。これだけ待機者が多いですから、私は、ある程度増やさなければならないんだろうと思いますが、一度に増やすと保険料がそれだけ、さっき話をしました、自然増で1,000円ほど増える計算ですから、それプラス、例えば100床増やせばプラス200円、200床増やせばプラス400円、平均保険料が自然増を合わせて、例えば1,400円増やさせてもらえるのであれば、それは200床ぐらいの施設は増やすことは可能です。ですから、ちゃんと自分たちがどれだけ負担して、どれだけのサービスを期待しているかと、そのバランスですよね。平均保険料が今現在3,900円、約4,000円としても、6,000円になってもいいと、7,000円になっていいと、それよりも認知症の高齢者などの皆さん方を早く、自分の関係の皆さんを早く施設に入れてほしいということであれば、それは十分できるんです。

ですから、安いから喜んでいるという、負担が少ないほうがもちろんいいんですよ、いいんですけれども、その結果、待機者がこれだけ多かったらどうなんだという、この辺のバランスはみんなで考えなきゃならない。サービスだけ期待しておっても、自分たちの負担も考えていかなければ、お金はどこからでも出てくるわけじゃありませんので、もちろん半分は国、県でちゃんと面倒は見てくれますが、残りの部分というのは市の負担であったり保険者の皆さん方の負担であったりするわけですから、保険者の皆さん方が、今言っているような平均保険料の負担を月1,000円や2,000円増えてもいいと、それよりも施設を増やすべきだという、この辺がこういうタウンミーティングとかいろんな場で、とにかくこういう高齢者の特別養護老人ホームとか、あるいはグループホームとか、そういうものをもっとこれからは増やしてほしいというような。

今は要介護３以上の方しか施設に入れません。要介護３、４、５の方しか、今、入所することはできません。それでも、いや、１の方も２の方もほんとうは入ってもらうべきじゃないかといったら、当然対象は増えるわけですから、そういう場合はどうするかと。こういうことは、これからみんなで考えて、相談をして決める時代になったんだろうと私は思いますよね。そうじゃなかったら、幾ら言ったって、国ははっきりその辺を言わんものだから、100しか収入がないのに200使おうとするものだから、毎年100ずつ借金して国債を発行して借金を返していって1,000兆円と、こういう世界一の。

だから、どれだけ負担をし、どれだけのサービスを期待するかという、その辺のバランスをどう考えていくかというのは、これからの時代だろうなというふうに思いますので、その辺、ほんとうは正直にその辺を説明して、どの辺で調整を図るかというようにこれからは考えていかなければならないのではないかなというふうに思っています。

そこで、それならこうせいと意見があればお願いしたいなと思います。

市民Ｈ

質問です。ちょっと勉強不足でわからないんですが、三日市のＨですが、保険料が上がる理由というのは、今の説明でちょっとわかったんですけれども、自然増ということの意味がよくわからないんです。自然に上がっていく、何で自然に上がっていくのか、ちょっと勉強不足ですけれども、教えていただければと。

市長
　まず、高齢化率、今、新川地域では８万2,000～3,000人の方の人口がございますが、その中で高齢化率がどんどん上がっていっています。黒部市は26％ほどですが、朝日町さんは32％ぐらいになっておられますので、平均で28.何％。この高齢化率が、例えば第５期の計画の終了が平成26年度なんですが、新しく今始まろうとしている３年間のが平成26年度末で、新川地域の高齢化率32％ぐらいになるだろうと思います。黒部市、入善町、朝日町さんで平均で32％。まず、高齢化率が上がって高齢者が増える、そして、それに伴って要介護者が、今現在3,000人ぐらいおられますが、それに従って平均的に上がっていって、平成26年度では、今の要介護者3,000人が3,372人、約１割ほど増える。それから、要介護１、２、３、４、５とあるんだけど、わりと新川地域介護保険組合は要介護者の１、２、３、軽度の方が今は比較的多いんです。魚津市さんは、申しわけないけど、重度の方が何となく多いんです。その結果、施設入所が多いんですが。介護予防事業を積極的にやって、何せあまり悪くならないように努力はしなきゃいけないんですが、高齢化が進むに従って、介護度が高くなっていけば、それだけサービスも増えて自然増に、それがすべて料金が、給付が増えるというような仕組みになっています。

事務局
　Ｈさん、よろしいでしょうか。
　時間もあと少しとなってまいりました。あと１名様ほど、ご意見、ご要望をお受けできると思いますが、いかがでしょうか。

市民Ｉ
　先ほど市長がおっしゃった件、介護保険は上がるが、市内にそういう施設をつくるべきだと思います。うちのおふくろも魚津の施設に入っているんですが、黒部になかなか入るところがないものだから、周りにご厄介にならんといかんという、この状況はいつか改めなきゃならないと思います。新川介護保険組合は一律でやっておられるんでしょうけど、民間の施設を見ると、朝日町とか入善町のほうが立派なのがある。黒部には、越野荘はありますけど、ほかにもありますけど、ちょっと見劣りするので、上げてもいいから立派な施設をつくってほしいなと思います。

市長
　ありがとうございます。
　今まだ24年度からの計画の策定中でありますが、来年の２月ぐらいには、第５期の介護保険計画を策定して決定をしたいと思っておりますが、今言われるように、黒部市内での施設の増床を計画的に進めていかなければならないのではないかなというふうに思います。それでも、入善町さんも朝日町さんも新たな施設や、あるいは増床の計画も持っておられますので、あわせて、ある程度の規模を考えていかなければならないのかなというふうに思っておるところであります。足りない、足りない、足りないと言っておったら、いろんなところで民間の方々がよく考えておられて、ならうちがやろうかという人も、ほかにも

まだ出てきておられるようでありますので、それを全部一遍に聞くとかなりの施設になりますので、少し平均的にならしながら、計画的に増やしていければというふうに思っております。

事務局

　それでは、これまでいろいろなご意見をいただきましたが、予定の時刻ということになりました。以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいというふうに思います。

――　了　――